

当院で診療を受けられた患者さん・ご家族様へ
臨床研究へのご協力をお願い

当院では、以下の臨床研究を実施しています。この研究では、普段の診療で得られた情報を使用させていただくものです。この研究のために、新たに診察や検査などを行うことはありません。以下の情報を研究に用いられたいとお考えの患者さんまたはご家族の方は、遠慮なくお申し出ください。お申し出いただいた患者さんの情報は使用いたしません。また、研究への参加にご協力いただけない場合でも、患者さんに不利益が生じることは一切ありません。

バルーン閉塞試験による側副血行路評価に基づく脾動脈瘤コイル塞栓術の有効性

1. 対象となる患者さん

2016 年 5 月～2023 年 4 月の間に当院で脾動脈瘤の治療を受けられた患者さん

2. 研究責任者

奈良県立医科大学 放射線診断・IVR 学講座 大島 圭裕

3. 研究の目的と意義

脾動脈瘤コイル塞栓術前にバルーン閉塞試験を行うことで、脾外からの側副吻合路の評価を行い、塞栓術後の脾梗塞領域を予測し最適な動脈瘤塞栓術を目指す研究です。

脾動脈瘤は内臓動脈瘤の中で最も頻度の高い動脈瘤であり、低侵襲なカテーテル治療が第一選択となる疾患です。術後に脾梗塞が起きることがあり、患者さんの血管解剖および塞栓部位・方法によって発症リスクが異なります。そこで、コイル塞栓術前に小さな風船が付いたカテーテルを用いて血管造影・CT を撮影することで血管解剖を詳細に把握すること(術前バルーン閉塞試験)で、最適な塞栓部位を検討し、脾梗塞のリスクを最小限にすることができると考えます。

4. 研究の方法

5. に示す情報を対象の患者さんのカルテから収集し、術前バルーン塞栓による側副血行路評価や塞栓術後の脾梗塞の発生率などを算出します。

5. 使用する情報

診療情報：診断名・年齢・性別・既往歴、血液検査結果、血管造影画像、CT 画像

6. 情報の管理責任者

奈良県立医科大学 学長

7. 研究期間

研究機関長の実施許可日～2027 年 03 月 31 日

8. 個人情報の取り扱い

対象となる患者さんの個人情報は厳重に管理し、利用する情報等からはお名前や住所等、個人を特定できる情報は削除し、研究番号に置き換えて使用します。また、研究成果を学会や学術誌等で公表する際も個人を特定する情報は公表しません。

9. お問い合わせ先

奈良県立医科大学 放射線診断・IVR 学講座 大島 圭裕

住所：奈良県橿原市四条町 840 番地

電話：0744-22-3051

e-mail：keisukeoshima@naramed-u.ac.jp